

## 7-1 雨降って地固まる

～ ミスからの逆転 ～

### 1. 立場と仕事

設計コンサルタント会社入社後約 10 年の経験を積んで仕事に自信も持てるようになった。自治体発注の橋梁下部工構造詳細設計チームに所属し、主任の肩書で設計実務の多くを引き受ける「主担当者」として活躍していた。

### 2. 遭遇した事態

詳細設計が無事完了し、工事発注後、工事現場も施工会社からの問い合わせに対応しつつほぼ完成の状態であった。ところが、会計検査時の指摘において、設計計算書と図面の不一致という「設計ミス」が発覚した。ミスの責任は設計会社側にあることが明白であった。このため、補修責任を負うのはもちろんのこと、最悪の場合は会社が指名停止処分を受ける恐れもある窮地に追い込まれた。

また、ミスの原因究明作業の過程において、発注者側にも責任があるのではないかという話になったため、懇意にしていた発注者の担当者のキャリアに傷を付ける事だけは絶対に回避しなければならない状況にも陥った。

### 3. 対応内容とその結果

発注者から申し渡された検討期限は 1 週間であった。緊急事態で且つ時間も限られていたため、上司や他の担当者に任せるよりも詳細設計を実施した自分自身が担当する方が対策を立案するうえで合理的であると判断して会社にも許可を得た。また、同時に自分自身が強いリーダーシップを発揮してタイムリーに重要な決断を下すことを初めに決意した。

具体的な対応としては、先ず迅速に N E T I S や文献等を紐解いて多岐にわたる工法や材料を調査することにより、大規模な補強工事を行わなくとも良い方法を在来工法だけに限定せずに新たな工法も含めて必死で探した。複数の案を比較検討した結果、下部工へ作用する主たる荷重である土圧を軽減するために新技術を積極的に導入することを決断し、「軽量盛土を裏込め材として使用する工法」を選定した。工法選定にあたっては、設計ミスに気付かないまま既に構築してしまった下部構造の配筋でも、設計上の問題がないことを事前に確認することも怠りなく実行した。

検討期間も可能な限り短縮したいという気持ちで、不眠不休で全力を尽くして対策立案に取り組んだ結果、わずか 3 日間で検討・計算・照査を完了して発注者からも対策内容について承諾を得た。

また、対策立案後、迅速に交渉を成立させるためには深いコミュニケーションが必要であると即断して自ら会計検査院へ説明に赴いた。対策立案者である自分自身の説明が功を奏して、検査院から速やかに対策案を了承していただいた。対策の施工も問題なく完了し、無事、御咎めなしとなった。発注者からも、早急な対策立案と事態鎮静化に対して高い評価を得た。まさに、雨降って地固まる、ミスからの大逆転であった。